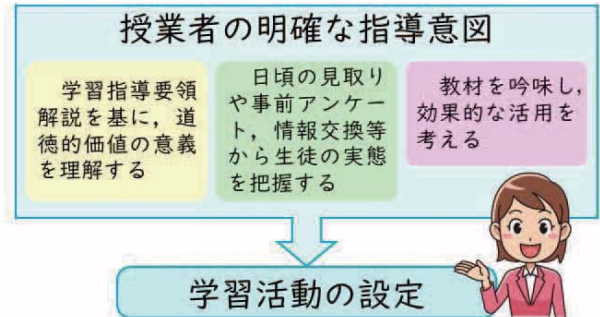


# 生徒の心の成長の様子を 積極的に捉え、認め、励ます



## ポイント ① 「考えさせたいこと」を基に学習活動を設定する

道徳科の授業構想では、授業者の明確な指導意図が欠かせません。明確な指導意図とは、生徒にどのようなことを考えさせ、どのようなことに気付かせたいのかを明らかにすることです。そのためには、道徳的価値の意義を理解すること、道徳的価値に関する生徒の実態を把握すること、教材の効果的な活用を考えることが大切です。これらを端的に表したものが「ねらい」となります。授業者の明確な指導意図を基に、学習活動を設定していきます。



## ポイント ② 学習活動を基に生徒の様々な学びの姿を想起する

道徳科の評価は、「生徒の学習状況や道徳性に係る成長の様子」を継続的に把握していくことが大切です。つまり、生徒の学習状況を見取ることから始まります。学習状況とは生徒が授業で学んでいる姿であり、目標に示されている学習活動の「道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を広い視野から多面的・多角的に考え、人間としての生き方についての考えを深める学習」です。これを基に、生徒の様々な学びの姿を想起します。

- ① 多面的・多角的な見方へと発展させているか
  - ・ねらいとする道徳的価値を様々な面から考えている。
  - ・道徳的価値を支える様々な根拠を考えている。
  - ・様々な登場人物の立場で考えている。
  - ・時間の経過とともに変化する気持ちを考えている。
  - ・人間の弱さや強さ等を捉えて考えている。
  - ・自分と違う意見や立場を捉えて考えている。

評価では、  
 ① 一面的な見方から多面的・多角的な見方へと発展しているか  
 ② 道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているか  
 といった点に着目することが重要です。  
 授業者は、明確な指導意図をもって、学習指導過程や指導方法を工夫しながら授業を構想していくことが大切です。

- ② 自分自身との関わりの中で深めているか
  - ・教材の登場人物を自分に置き換えて考えている。
  - ・教材の問題点等を自分事として受け止めて考えている。
  - ・日常や学校生活等を想起しながら考えている。
  - ・自分の生活を見つめ、振り返りながら考えている。
  - ・自分だったらどうするか考えている。

## ポイント ③ 生徒の学びの姿を見取る（具体的な評価の方法）

評価は、個々の教師が個人として行うのではなく、学校として組織的・計画的に取り組むことが重要です。取組の蓄積と定着が、評価の妥当性、信頼性を高めることにつながります。

<p><b>自己評価や相互評価</b></p> <p>生徒の学びの傾向の把握や、授業改善の資料として役に立ちます。ノートやワークシートに位置付け、活用している例が多くあります。</p>	<p><b>チームによる評価</b></p> <p>相互に授業を参観し、他の教師と協力して行う評価の一つです。生徒の新たな一面を見ることができ、生徒の学習状況をより多面的・多角的に把握することができます。</p>	<p><b>エピソード記録</b></p> <p>指導者が、座席表やノート等に生徒の学習状況(発言や話合いの様子等)を記録していく方法です。毎時間全員を記録していくことは難しいので、計画的に学習状況を見取ることが大切です。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>12 〇〇〇〇 社会の一員という意識</p> </div> <p>【座席表(例)】</p>
--	--	---

# 1 学年

## 「よりよい社会をつくるために」

C-(12)社会参画, 公共の精神

### 道徳科実践事例

教材「僕たちの未来」(出典:光村図書)を活用して,地域社会の課題を自分事として捉え,自分にできることを模索しながら,社会に関わることの意義について考える。

#### 評価の視点

- ・「僕」の心情や社会をよりよくするために大切なことについて,多面的・多角的に考えていたか。
- ・よりよい社会をつくることについて,自分との関わりの中で考えを深めていたか。

#### ポイント 1



##### <生徒の実態>教師の見取りから

身近な人のことについて考えられる生徒が多いが,社会の一員としての認識が浅く,ボランティア活動等,社会における様々な活動に積極的に参加しようとする生徒が少ない。

##### <教材の効果的な活用>

ボランティア活動に積極的ではなかった「僕」の考えが,浜井さんの話を聞いて変化するという内容である。「僕」の心情の変化を追うことで,社会の一員として,社会に関わる意義について考えられるだろう。

##### <考えさせたいこと>

地域社会の課題を自分事として捉え,自分にできることを模索しながら,社会に関わることの意義について考えさせたい。

##### <ねらい>

「社会に関わること」の意義について考えることを通して,社会の一員であるという自覚を深め,よりよい社会をつくらうとする態度を育む。

#### 学習指導過程 (一部抜粋) ポイント 2

本時のねらい及び考えさせたいことを基に,生徒の様々な学びの姿を想起し,学習指導過程を構想した。

展開	<p><b>3 よりよい社会をつくるために大切なことについて話し合う。</b> ◎私たちの社会をよりよくするために,どのような考えが大切だと思いますか。(ワークシート記入,話し合い)</p> <p>社会をよりよくするために大切なことについて様々な面から考える活動</p>	<p>予想される生徒の発言を多面的・多角的に考える</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の住んでいる地域や身近な社会に関心をもつ。</li> <li>・他人事にしないで,社会の一員としての自覚をもつ。</li> <li>・社会をよくするために,自分が所属している社会について知ろうとする。</li> </ul>	<p>◆具体的な評価の視点(方法)</p> <p>◆社会をよりよくするために大切なことについて,多面的・多角的に考えているか。(ワークシート)</p>
	<p><b>4 本時の学習を振り返り,自分たちの住む地域や社会をよりよくするために自分たちができることについて考える。(ワークシート記入)</b></p> <p>自分の生活を見つめ,振り返りながら考える活動</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校で取り組んでいる活動に協力することから始めたいと思った。</li> <li>・今までは,誰かに言われてから参加することが多かったけれど,自ら積極的に参加していきたい。</li> </ul>	<p>◆自分の住む地域にも目を向け,自分にできることについて考えるなど,よりよい社会をつくることについて自分との関わりにおいて考えているか。(ワークシート)</p>

#### ポイント 3 ワークシートから生徒の学びの姿を見取る

ワークシートは,全ての発問で書かせるのではなく,指導意図に基づいて,書かせる場面を精選しましょう。

##### ①多面的・多角的な見方へと発展させている生徒の感想

この話のように私が地域のためにできることは何かあるのかとより深く考えた。「ボランティア」としてもたくさんの活動があり,地域の歴史や思いを受け継いでいるものもある。それを私も受け継ぐ一人になれたら良いと思う。

→内容項目「C-(16)郷土の伝統と文化の尊重,郷土を愛する態度」と関連付けて,ねらいとする道徳的価値を様々な面から考えている。



##### ②自分自身との関わりの中で深めている生徒の感想

自分たちの地域,社会,未来を自分と同年代の人が守ろうとしている姿がすごいと思った。今後は,周りのことを考えて,次世代の人がやりやすい,やりたいと思えるような社会との関わりをもちたい。



実践事例の詳細は右のQRコードから

